

かたりべ149

豊島区立郷土資料館・芸術文化推進グループだより

開館40周年記念

新着資料展「それぞれのメモリー」開催中!

9月8日(日)まで

豊島区立郷土資料館は、昭和五九(一九八四)年六月一八日に開館しました。今年が開館四〇年という節目の年にあたります。

『豊島区史』編纂事業を引継ぐ博物館としてスタートし、五年間にわたる「歴史生活資料所在調査」をきっかけに、区民をはじめ多くの皆様から、豊島区域に関する文書や図書、農具、生活資料、写真などを寄贈、提供いただきました。

現在、当館が所蔵している文書は約一〇万点、生活資料は約一万五千点にのぼります。遺された資料や写真から、私たちは豊島区域のまちの変遷を知り、そこで暮らした人々の記録と記憶をたどり、追体験することができます。

本展では、令和五年度に寄贈された明治〜昭和期の絵葉書・広告・しおり等のスクラップブック、蕎麦店浅野屋(池袋)資料、戦中・戦後の生活・出征・教育関係資料のほか、昭和三〇

〜四〇年代の大塚駅周辺と都電などの懐かしい写真を紹介します。展示に際し、寄贈者・提供者、協力者の皆様に心より御礼申し上げます。

★展示見どころ解説

(常設展示と新着資料展)

8月24日(土)

午後2時〜 約40分間

※事前申込み不要。展示室にご集合ください。

★参加者に、開館40周年記念のオリジナルクリアファイルをプレゼントします。皆様のご来館をお待ちしています。

(郷土 秋山伸一、清水健太、

横山恵美)



都電大塚営業所と車庫 上野誠氏撮影・提供
昭和46(1971)年3月18日 16系統都電廃止

開館40周年記念
「新着資料展 それぞれの
メモリー」資料紹介

足立達夫氏寄贈

豊島区南長崎二丁目に住居する足立家は、かつてウマヤと呼ばれており、鷹狩りの中継所として馬の世話を行い、馬丁（馬の世話や口取りをする人のこと）を多数抱えていたということです。達夫氏の父仁作氏は、戦前期には映画俳優として活躍していたようですが、戦後は足立家を継いで不動産経営に携わりました。ここでは、足立家に代々伝わってきた葬祭関係資料を展示しました。



香典帳ほか葬祭関係資料



シベリア抑留関係資料

上野誠氏の祖父篁氏は、西巢鴨三丁目で上野銃剣製造所を経営し、町会長等を務めていたことから、製造所や防空演習、建物疎開など戦中・戦後の資料・写真を寄贈・提供いただきました。今回の寄贈で特筆されるのが、父桂平氏が昭和一九（一九四二）年に満州（現中国東北部）に出征し、終戦後ソ連（シベリア）に強制抑留され、昭和二二年に帰還するまでの六年間の軍隊生活と抑留生活の貴重な資料が残されていたことです。戦地の日記や写真、過酷な収容所生活の中で記したメモ・日記、ロシア語の単語帳・文例帳、木製スプーンとナイフ、家族あての葉書や電報等を通して出征兵士と家族の思いを感じ取っていただければと思います。

上野誠氏寄贈

牛米努氏寄贈

東久留米市に住居する牛米努氏は、長年にわたり国税庁税務大学校租税史料室に勤務するかたわら、東京および近隣地域の歴史資料の収集を行ってききました。現在は牛米氏が収集してきた資料を、その資料にゆかりのある地方自治体へ自ら出向き、還元していく作業を進められています。

ここでは、戦前期の区内小学校卒業アルバムをはじめ、豊島区医師会の会則、戦後の映画全盛期時代に池袋駅周辺に所在した映画館で配布された上映案内などを展示しました。



池袋駅周辺の映画館の上映案内ほか戦後資料

大槻武氏寄贈

大槻家は戦前、絵師だった父の定雄氏が講談社の雑誌の仕事をしていた関係で、小石川区音羽（現文京区）に住んでいましたが、武氏が昭和一二（一九三七）年に生まれた翌年、雑司ヶ谷一丁目に移居しました。当館には以前、昭和一七年の東京初空襲を描いた定雄氏のスケッチなど戦中・戦後の資料を寄贈いただきましたが、今回、武氏の種痘済証のほか、昭和一九年度の高田第一国民学校から昭和二四年度の高田小学校までの一連の通信箋（通信簿）、作品展覧会賞状、修学旅行記など、戦中・戦後の小学校の変遷と教育活動を知るうえで興味深い資料などを寄贈いただきました。



戦中～戦後の高田小学校の通信箋ほか

谷雅子氏寄贈

谷家は、雅子氏の義祖父が、大正一二（一九二二）年の関東大震災後、池袋西口に土地を購入し、以来、池袋に住んでいます。昭和一〇年代（一九三五〜四四）には本所区（現墨田区）で帽子屋を経営し、繁盛したといえます。戦時中は、推理作家の江戸川乱歩と同じ町会です。乱歩が副会長、義父が役員を務めたことから、親交がありました。昭和二〇年四月一三日の城北大空襲では、乱歩邸と谷家は焼失を免れました。今回、義父が保管していた衣料切符、國の寶（妊産婦加配通帳）、徴兵保険関係資料、貯蓄債券、報国債券など貴重な戦時中の資料を寄贈いただきました。



戦時報国債券 昭和17年 日本勧業銀行

富山静子氏寄贈

富山静子さんの祖父牧野六之助氏は、明治時代に新潟県で生まれ、祖母トメ氏との結婚後上京し、本郷（現文京区）に住みます。その後、昭和二四（一九四九）年、娘（富山さんの母）の結婚を機に、一家は豊島区駒込に引っ越しました。今回、寄贈いただいた資料の『大震災写真画報』は、六之助氏が本郷居住時関東大震災に遭い、その後購入したものと伝わっています。大正二二（一九二三）年九月一日に発生した関東大震災による被害状況を撮影した写真が紹介されており、当時の惨状がわかります。



「大震災写真画報」大阪朝日新聞社、大正二二年九月

福田裕昭氏寄贈

豊島区東池袋二丁目に住住する福田家は、先々代の福田善吉氏（明治二八（一八九五）年生まれ）が滋賀県甲賀郡水口町（現甲賀市水口町）から上京後、修行ののち大正年間（一九二二〜二六）に蕎麦屋（屋号浅野屋）を開業し、昭和一〇年代まで営業を続けたほか、地元池袋地域や自らが属する組織の有力者として昭和四〇年代まで多くの業績を残しました。ここでは、善吉氏が携わった蕎麦屋（料理屋）関係資料をはじめ、戦前・戦中・戦後の池袋地域の貴重な諸資料を中心に展示しました。



浅野屋で用いられた道具・帳簿類

威光山法明寺寄贈

日蓮宗の威光山法明寺の近江正典住職より、先々代の近江正順住職と先代の近江正隆住職が収集してきたコレクションを寄贈いただきました。特に明治期の商標ラベルや美術絵葉書、名所絵葉書などは、明治期以降の輸出産業や絵葉書ブームを知るうえで貴重な資料といえます。また大正期から昭和期の菓子・飲食店、百貨店などのラベルやしおり、掛け紙、チラシ、各種チケット、乗車券、マッチラベルなど多種多様なスクラップブックとスクラップシートは、当時の世相や流行、物価や暮らしを知るだけでなく、区内の飲食店や百貨店、映画館などの商業資料としても大変興味深い資料です。



展示風景



文学・マンガ分野
ゆかり作家の横顔 第二回

『かたりべ』一四二号に掲載した「文学・マンガ分野ゆかり作家の横顔 第一回 作家・佐川美代太郎」に続いて、シリーズ第二回は「町会員としての江戸川乱歩」です。

『かたりべ』一四二号に掲載した「文学・マンガ分野ゆかり作家の横顔 第一回 作家・佐川美代太郎」に続いて、シリーズ第二回は「町会員としての江戸川乱歩」です。

このシリーズは、調査研究の一環として、ゆかりの作家本人やそのご家族、関係の深かった方々へのインタビューやエッセイなどから、作家の知られざる一面を紹介する試みとして不定期で連載していきます。

現在、郷土資料館で開催中の開館四〇周年記念新着資料展「それぞれのメモリー」では、池袋三丁目北町会が江戸川乱歩と同じ町会だった谷家からの寄贈資料を展示しています。その中には貯蓄債券、報国債券も展示していますが、当時のことについて乱歩が次のように書き記しています。

私が町会の仕事をしたのは昭和十七年の初めから二十年の初夏まで三年ばかり

だが、そのあいだ、時期によって役目が変わったけれども、大部分は副会長と防空指導係長を勤め、そのほかに貯蓄部の総代と消費經濟部の総代を買って出て兼務した。

(中略)

貯蓄部というのは国債を町内の人に買わせる仕事で、都から区に割当てが来、区から各町会に割当てが来る、その金額を毎月のように消化しなければならぬ。税金ではないから強制することはできない。何とかごきげんを取って、買ってもらわなければならぬ。(中略) そうなると自分でも精一杯国債を買わなければならぬのだが、それだけでは足りず、私は丸一年間、禁煙をつづけて見せた。あれほどふかした煙草をやめて国債を買っているのですという宣伝である。「町会の仕事」『江戸川乱歩全集第29巻 探偵小説四十年(下)』一三三頁〜一四四頁 光文社文庫、二〇一五年

江戸川乱歩といえば、四七回の引越し

を繰り返したことで有名ですが、池袋はその最後の土地でした。乱歩が池袋へ移り住んだのは一九三四(昭和九)年、「二銭銅貨」でデビューしてから一二年が経った三九歳の夏のことでした。

乱歩が住み始めてから三年後には盧溝橋事件が勃発し、その翌年には国家総動員法が発令され、乱歩と池袋を語る時に、「戦争」は切り離すことができません。

上記で引用した『探偵小説四十年』は、戦時中から乱歩自身に関するあらゆる記録や新聞、雑誌の切り抜きなどを保存したスクラップブック「貼雑年譜」をもとに書かれたものです。戦時中の出来事は「隠棲」を決議す【昭和十三・四・五年度】

から始まり、戦争の影が探偵小説界にも忍び寄り、検閲による作品の削除や出版停止、そして乱歩が町会役員となり町会副会長まで進んでいき、戦時中から戦後までの時代の様子と乱歩の心境が詳細に語られています。

「極端な厭人病」と自認していた乱歩が、戦争を機に近所付き合いをするようになったことを「恐るべき変化」と記していますが、その書きぶりからは、葛藤の中でも自分の仕事はきつちりとやりたいたいという一面がうかがえます。

戦時中のミステリ作家たちについて

は、二〇一九年度企画展「暗がりから池袋を覗く〜ミステリ作家が見た風景〜」でも紹介しております。図録は三〇〇円で販売中ですので、ぜひお手にとってご覧ください。



今年には乱歩生誕一三〇年の年にあたり、一〇月一日から一二月一四日まで、郷土資料館の開館四〇周年を記念して収蔵資料展「としま文学プロムナード」を開催いたします。乱歩自筆原稿や、企画展「暗がりから池袋を覗く」をきっかけにして、光文文化財団より「寄贈いただいた松野一夫画『江戸川乱歩肖像画』も展示予定です。

常設展示室大ケース内では、鈴木信太郎記念館コレクション「三人の隠士たち―碎巖・春耕・碧山―」をあわせて開催いたします。皆様のご来館をお待ちしております。

(文学・マンガ 西方ゆり恵)

駒込歴史散策

本郷丹後守下屋敷と木戸孝允別邸跡 ― 後編

「駒込歴史散策」前編（『かたりべ一四八号』六頁）では、本郷丹後守下屋敷と二つの石碑について取り上げました。後編は、明治期この地に建てられた木戸孝允の別邸についてご紹介します。

木戸孝允による庭園整備



木戸孝允は天保四（一八三三）年、長州藩医の家に生まれます。幕末期には桂小五郎の名で尊王攘夷運動に奔走し、慶応二（一八六六）年に薩摩藩の西郷隆盛、小松帯刀らと薩長同盟を結びました。維新後の明治二（一八六九）年には新政府の参議に就任。版籍奉還や廃藩置県を推進し、日本の近代化に貢献します。

そんな木戸ですが、公務の傍ら駒込に別邸を設け、庭園整備に勤めました。

江戸時代、駒込は広大な敷地を有する柳沢吉保下屋敷（現・六義園）や伊勢国（現・三重県）津藩藤堂家下屋敷などがあり、その庭園管理を担った農民が植木屋として活躍しました。江戸幕府がなくなり明治の世になると、植木屋たちはそ

れまでの大名ではなく、新政府の官僚や財閥が所有する庭園の管理を担うようになりました。

木戸の別邸については、『木戸孝允日記』や『日本園芸会雑誌 八九号 明治三二年』（『駒込・巣鴨の園芸史料』所収）からみるることができます。

明治二（一八六九）年、木戸は荒れ果てた本郷丹後守下屋敷の庭を慰い、一帯の土地を買い取り、庭園を整備します。また、明治期に活躍した植木屋内山長太郎をはじめ、複数の植木屋が出入りし、樹木の剪定や石灯籠の設置など、木戸は精力的に庭づくりを行ないました。

明治九（一八七六）年四月二四日、明治天皇は王子抄紙局（現・国立印刷局王子工場）への行幸（天皇の外出）の帰路、病を患い駒込の別邸で静養していた木戸を見舞いに訪れます。明治天皇はこれまで国事に尽くした木戸の功績を労いました。翌明治一〇年、木戸は西南戦争勃発に伴い、明治天皇とともに京都に向かいますが、病症悪化により、京都の別邸で同年五月二六日に亡くなりました。

木戸孝允は西郷隆盛、大久保利通と並び、「維新三傑」と称されています。

木戸孝允別邸のその後



別邸のあった土地は大正期に木戸家の手を離れ、個人へ売り払われました。

現在、豊島区駒込二丁目一〇の一角には、前述の明治天皇が木戸の病床を見舞ったことを示す「明治天皇行幸所木戸舊（旧）邸」の石標があります（場所は『かたりべ一四八号』六頁掲載地図①参照）。石標は昭和八（一九三三）年、文科大臣嶋山一郎により聖蹟（天皇が行幸で訪れた地）の指定を受け、昭和一〇（一九三五）年に建立されました（戦後、昭和二三



①明治天皇行幸所木戸舊（旧）邸の石標（2023年12月撮影）



②木戸坂（2023年12月撮影）

（一九四八）年に指定解除）。

また、駒込東公園からアザレア通りへ東に下る坂は「木戸坂」（写真②）と呼ばれ、木戸邸が駒込の地にあったことをしのばせています。

ここまで「駒込歴史散策」と題し、本郷丹後守下屋敷と木戸孝允別邸跡についてご紹介しましたが、いかがでしたでしょうか。今後区内の気になる史跡を散策していきたいと思えます。

（郷土 清水健太）

【参考】坂本辰之助編『豊島区史「昭和一六年版」』豊島区役所、一九四一年。日本史籍協会編『木戸孝允日記一・二・三』東京大学出版会、一九六七年。国史大辞典編集委員会『国史大辞典 第四卷』吉川弘文館、一九八四年。豊島区立郷土資料館『駒込・巣鴨の園芸史料「豊島区立郷土資料館調査報告書 第一集」』豊島区教育委員会、一九八五年。

令和6年(2024)度 豊島区立郷土資料館・芸術文化推進グループ事業予定 (2024年4月～2025年3月)

※今後の感染状況等により、休館や事業の中止あるいは事業内容や日程を変更する場合があります。
※詳細は『広報としま』、区ホームページなどで随時お知らせいたします。

収蔵資料展 (郷土)	開館40周年記念「新着資料展 それぞれのメモリー」	4月19日(金)～9月8日(日)
収蔵資料展 (文学・マンガ、郷土)	開館40周年記念「としま文学プロムナード」 鈴木信太郎記念館コレクション 「三人の隠士たち―碎巖・春耕・碧山―」	10月1日(火)～12月14日(土)
企画展 (3分野連携)	開館40周年記念「新・豊島風土記」	1月11日(土)～3月15日(土)
展示 見どころ解説	展示の見どころを学芸員がわかりやすく解説します。 ※事前申し込み不要 直接会場へ	5月、6月、7月、8月、10月、11月、1月、2月 各第4土曜日 14時～ 40分程度
庁舎まるごと ミュージアム (豊島区役所3階 通路パネル展示)	美術分野 ①「池袋モンパルナスが旅をする2」 ②「豊島区美術収蔵作品の紹介」	①～7月31日(水)予定 ②10月～3月予定
	郷土資料分野 休止	休止
	文学・マンガ分野 ①常設展示コーナー ②スポットライトコーナー 休止	①4月1日(月)～3月31日(月) ②休止
講座・講演・ 見学会など	第19回池袋モンパルナス回遊美術館講演会 東京・区立美術館ネットワーク連携事業2024 豊島区×立教大学「美術に見る東京の増殖―テクノロジーと美術」 講師：練馬区立美術館学芸員加藤陽介氏	6月1日(土)
	文学・マンガ収蔵資料展関連事業 ①宮川健郎氏講演会(児童文学) ②後藤隆基氏講演会(文学) ③担当学芸員による「としま文学プロムナード」講座	①10月12日(土) ②11月～12月開催予定 ③10月27日(日)
	企画展関連事業 連続講座「豊島区史を読む」(仮)(3回)	1月～3月開催予定
刊行物	郷土資料館・芸術文化推進グループだより 「かたりべ」149号～151号	年3回、2,000部、無料頒布 8月・11月・2月刊行予定
	研究紀要『生活と文化』第34号(付・2023年度年報)	3月刊行予定 400部 有償頒布
	企画展図録『新・豊島風土記』(仮)	1月刊行 1,000部 有償頒布
臨時休館・年末 年始の休館	①収蔵資料展の開催に伴う休館 ②収蔵資料展の開催に伴う休館 ③展示替えおよび年末年始の休館 ④展示替えに伴う休館	①3月25日(月)～4月18日(木) ②9月9日(月)～9月30日(月) ③12月15日(日)～1月10日(金) ④3月16日(日)～3月31日(月)

研究紀要『生活と文化』第33号 付・2022年度年報 価格900円 2024年3月発行

※郷土資料館(としま産業振興プラザ7階)・行政情報コーナー(区役所4階)にて販売しています。

- 「区制90周年特別展「豊島大博覧会」記念対談 池袋道通 今も昔も」 寺田農×原田光
 「学童集団疎開の決定」 青木哲夫
 「近世飴屋川口屋の流れを汲む」 鄧 君龍
 「天保一〇年徳川家祥の江戸北郊訪問―「春のみかり」「雑司ヶ谷御供の記」
 (東京大学史料編纂所蔵史談会本「天保日録」所収) 及川将基
 [資料紹介] 鈴木信太郎旧蔵のポール・クローデル作『四風帖』関連資料について 永嶋里佳



かたりべ
No.149



2024年8月20日
豊島区立郷土資料館
東京都豊島区西池袋2-37-4
としま産業振興プラザ7階
電話 03-3980-2351



レファレンスルーム撮影スポット

「かたりべ」一四九号をお届けします。
郷土資料館は、今年で開館四〇周年を迎えます。二月に公式Xを開始し、四月には新しい学芸員が仲間入りしました。
六月一八日の誕生日にはレファレンスルームなどを飾り付けして(左写真)、アンケートに回答いただいた先着一〇名の方にくじ引きで当館オリジナルグッズをプレゼントしました。またアンケートのほか、公式Xをフォローされた方、SNSに投稿された先着一〇名の方に記念シールをお渡ししました。
今年是一年を通して開館四〇周年記念事業を実施します。区ホームページや公式Xで随時イベント情報を発信しています。皆様のご来館をお待ちしています。
(横山)



公式X

編集後記